

室蘭大黒島のオオセグロカモメ *Larus schistisagus* の繁殖状況

村上速雄・伴野俊夫・笹森琴絵・野田和宏・吉野智生・相澤空見子・小城春雄

〒059-0015 北海道登別市新川町4-1-28 噴火湾渡り鳥研究会*

The breeding State of Slaty-Backed Gulls *Larus schistisagus* in Daikoku Is., Muroran-City, Hokkaido, Japan

Hayao MURAKAMI, Toshio BANNO, Kotoe SASAMORI, Kazuhiro NODA,
Tomoki YOSHINO, Kumiko AIZAWA and Haruo OGI

Hunkawan Bird-Migration Research Group, Shinkawa-cho, Noboribetu-City, Hokkaido, 059-0015 Japan

Abstract. Slaty-Backed Gulls *Larus schistisagus* were breeding in Daikoku Is., Muroran-City (N42°20'E140°55'). 813 nests were estimated by our research at 23 June and 8 July 2006.

はじめに

室蘭大黒島は内浦湾（噴火湾）内にある室蘭港の出入りに位置（北緯42度20分，東経140度55分）する（図1）。島の中央に灯台があり1891～1974年までは燈台守が滞在していたが（室蘭市役所，2008），現在は無人となっている。また夏期に島には釣り人や観光客が上陸する。

筆者らは2005年10月29日，噴火湾渡り鳥研究会の調査で室蘭大黒島に上陸した際に，飛行可能に成長したオオセグロカモメ *Larus schistisagus* の幼鳥の死体を確認した。これまで室蘭大黒島におけるオオセグロカモメの繁殖の報告がない。またオオセグロカモメの繁殖数は，根室市のモユルリ島で過去30年間増加傾向にあると考えられたが，1982年から減少に転じ，1996年まで年平均7.0%ずつ減少していると報告されている。また胆振西部でのオオセグロカモメのコロニーについての詳細な繁殖情報はほとんどない（Osa & Watanuki, 2002）。

また，毎年，夏に島内の一部で草刈りが行われており繁殖の影響があると考えられた。そのため，室

蘭大黒島の繁殖数および繁殖状況の把握することは重要と考えられ，調査を草刈りの前後に行った。

調査地および環境

島は面積2.4ha，周囲700m，標高35mである（室蘭市役所，2008）。

島には簡易港があり，付近に砂浜が長さ約135m，幅4mがあり，残りの外周565mは岩礁であった。灯台のある上部は平坦であるが，周辺は海に向かって急な傾斜となっている。また落石防止用の金網が幅20mで，海岸から灯台へ続く階段の両側に海岸から島上部まで張られていた。

植生は島上部の灯台付近の平坦部（以下，灯台付近と示す）では，オオイタドリ，ハナウドなどの草丈150～200cmの高茎草本が被度30%，草丈約70cmのチシマザサが30%，草丈約50cmのイネ科草本が10%，灌木が10%，灯台施設が20%で占められていた。法面（斜面部）ではオオイタドリ，ハナウドなど草丈150～200cmの高茎草本が40%，草丈約50cmのイネ科植物が10%，ガレ場（裸

*代表：伴野俊夫

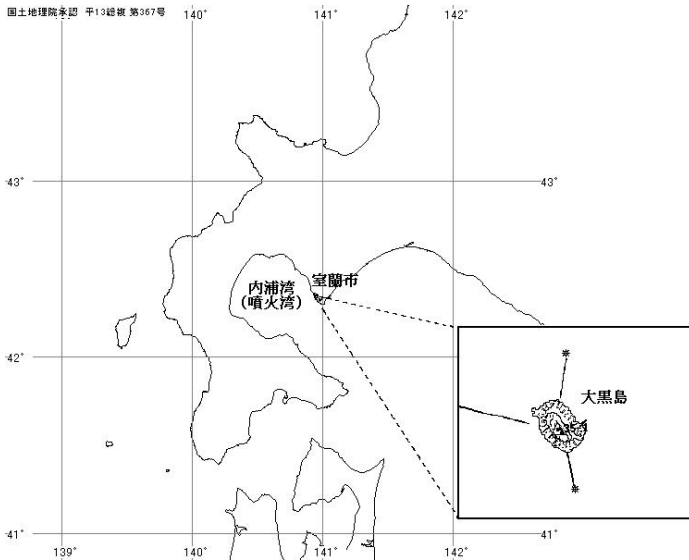


図1. 室蘭大黒島の位置および島の地形図。
Figure 1. Location of Daikoku Is., Muroran City, Hokkaido, Japan.

地) 50% で占められていた。

調査方法

営巣調査は草刈り実施前の2006年6月23日と、実施後の7月8日に行った。調査は、島内の繁殖状況を把握するためコドラートおよび全巣カウント調査を行い、船で島周辺を周回しながらセンサスを行った。周回センサスは、オセグロカモメの成鳥をカウントし、加えて、植生状況の把握、撮影記録を行った。

6月については、コドラートを灯台付近に20 m×4 m、海岸部に50 m×4 mをとり、巣、卵および雛の数を数えた。なお、海岸部のコドラートにはオオセグロカモメの繁殖数が少ない岩礁部も含めた。

7月については、6月の結果、灯台付近は巣の数が少なかったため、コドラートを使用せず平坦部をくまなく踏査し、全部の巣、卵、雛を数えた。海岸部では6月と同様とした。

結果および考察

調査の結果、オオセグロカモメの巣は確認できたがウミウや、ウトウ、ウミツバメ類など他の海鳥の巣は確認できなかった。

コドラート調査の結果を表1に示した。

灯台周辺部の6、7月の巣数、巣密度には大きな

差はあったが、調査方法によるところが大きいと考えられた。巣密度は6月のほうが7月に比べ約5倍であった。6月の巣密度が高くなった要因は、草丈の低く、比較的巣が多い場所にコドラートを取り、巣のほとんどない高茎草本、チシマザサが優占する場所でのカウントを行わなかったためと考えられる。

海岸部では巣数は7月のほうが7巣多くまた、巣密度は、7月のほうが1.3倍高かった。この要因として、7月には、巣が崩壊しており誤って巣ではない草の塊をカウントした可能性が高いと考えられた。また新たな巣は確認されなかった。しかしこの島の巣密度は個体数の減少傾向にある道東の厚岸町大黒島、根室市モユルリ島に比べ高いと考えられる(山階鳥類研究所, 1995, 1997, 1998)。繁殖可能エリアは灯台付近、海岸では砂浜部で幅4m、岩礁部で幅2mでオオセグロカモメが繁殖に利用できると考えられた。また法面では植生がガレ場、高茎草本の場所ではほとんど繁殖が確認できなかったが、イネ科草本の場所では砂浜と同様に利用していることを確認できた。

これらの結果から、室蘭大黒島での繁殖巣数は813巣と推定した(表2)。

卵は海岸部では7月のほうが13個少なかった。このことから卵は順調に孵化したと考えられた。

表1. コドラート, 全巢カウントによる調査結果

| 調査区 | 調査日 | 面積 (m ²) | 巣数 (nests) | 巣密度 (nests/m ²) | 卵数 (卵) | 雛数 (羽) |
|------|-------|-------------------------|---------------|--------------------------------|-----------|-----------|
| 灯台付近 | 6月23日 | 80 | 5 | 0.0625 | 1 | 2 |
| | 7月8日 | 4,700 | 55 | 0.012 | 5 | 20 |
| 海岸部 | 6月23日 | 200 | 27 | 0.135 | 22 | 26 |
| | 7月8日 | 200 | 34 | 0.170 | 9 | 17 |

表2. 推定繁殖数算出

| 場所 | 推定根拠 | 繁殖巣数 (巢) |
|------------|----------------------------|----------|
| 海岸 砂浜部 | 135m×4m×0.135 (巣密度) = | 72.9 |
| 海岸 岩礁部 | 565m×2m×0.135 (巣密度) = | 152.55 |
| 灯台付近 | | 55 |
| 法面部 | 70m×(√30625/9-2) m×0.135 = | 532.4 |
| 総繁殖巣数 (推定) | | 812.85 |

推定条件

- ・調査結果から灯台付近は7月, 海岸部は6月の結果を用いた.
- ・島周囲, 砂浜部では幅4m, 岩礁部では幅2mではオオセグロカモメが繁殖できる.
- ・法面部は, イネ科草本が優占する面積により算出した.

6, 7月ともに巣内に1~4個あり, 孵化している最中のものや死卵がいくつかあった.

雛は海岸部では7月のほうが9個体少なかった. 死んでいた個体がいくつかみられたが6月にすでに巣から出て, 近くの草陰に隠れていたり, 親のあとについていたりする個体もいたため, このときはコドラート内には少なかったと考えられた. また死んでいた個体は成鳥に頭などをつつかれた個体もあったが目立つ外傷がない個体もあった.

また, 草刈りが行われた形跡は見つからなかった. そのため, 現在の草刈りの実施状況ではオオセグロカモメの繁殖に及ぼす影響はほとんどないと考えられた.

周回カウントの結果, 島付近のオオセグロカモメ成鳥は, 6月では1,400個体, 7月では1,339個体であった.

謝辞

本調査にあたり多大なアドバイスをさせていただ

いた山階鳥類研究所の佐藤文男氏, 帯広百年記念館学芸員の池田享嘉氏にこの場で御礼を申し上げる.

参考文献

- 室蘭市役所(2008)"室蘭市役所ホームページ". (オンライン), 入手先 <http://www.city.muroran.lg.jp/main/org6400/life5_hatikei_index.html>, (参照 2008-05-17).
- Osa, Y. & Y. Watanuki, 2002. Status of Seabirds Breeding in Hokkaido. *J. Yamashina Ist. Ornithol.*, 33: 107-141.
- 山階鳥類研究所, 1995. 平成7年度鳥類標識調査報告書. 57-68 pp. 山階鳥類研究所. 我孫子.
- 山階鳥類研究所, 1997. 平成9年度鳥類標識調査報告書. 89-105 pp. 山階鳥類研究所. 我孫子.
- 山階鳥類研究所, 1998. 平成10年度鳥類標識調査報告書. 89-105 pp. 山階鳥類研究所. 我孫子.